



## 「福澤育林友の会」ニュース

第36号 発行日2019年8月1日

福澤育林友の会  
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部  
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190  
<http://ikurin.jp/>



「AIと森林」

福澤育林友の会  
会長 渡部 直樹  
(慶應義塾常任理事)



1950年代に開発されたAI(人工知能)は、近年のコンピュータの発展、ディープ・ラーニング等の技術的進展により、その将来に大きな期待が寄せられています。現時点でも、チェスや囲碁、将棋の名人たちを完膚なきほどに破り、証券等のディーリングを実行し、自動車の完全自動運転の実現を可能にさせています。2045年にはAIが知識・知能の全ての点で人間を超越し、世界を変革する技術的特異点が来るという議論もある程です。

人間を超えるかについては、疑問のあるところですが、今やビッグデータを扱えるようになったAIは、確実に社会に大きな変革を与え、18世紀の産業革命に匹敵する、もしくはそれを遥かに凌駕する影響を与える(第4次産業革命)と考えられています。

これには、期待と不安が同居しています。AIが新しい産業・雇用を生み出し、人間を労働苦から解放するといったポジティブな影響も考えられますが、人間の仕事を奪うだけでなく、個人の自由も侵害されるのではないかと危惧されています。そのため、AI利用に関する倫理規定の厳密化、国民に最低限度の生活保障を与えるベーシック・インカムを導入等が真剣に議論されるようになっていきます。

わが国の森林に関しては、急峻な地形によるインフラ整備の遅れ、林業に従事する人手の不足、木材価格の下落とコストの増大、等々のため収益性が低下しており、多くの事業者の経営が困難になっているといわれています。この現状を克服するにはAIの活用は非常に重要であると考えられます。ドローン等を用いた森林の綿密な調査は、複雑な地形とそのプロパティ・ライツの明確化を可能にし、管理システム構築のためのインフラとなると思われます。また、人力では困難な作業も、IOTを搭載した道具や重機によって可能になること等、多くのポジティブな側面を持っていると考えられます。

また、AI化が進むことは同時に、SDGsのような人々の環境思考を却って促進させると思われます。森林の維持と活用にも、これまで以上に関心が向けられ、森林の価値もこれまで以上に高まるのではないかと、個人的には楽観的に期待しています。

## 農林水産祭天皇杯を受賞して

速水紫乃

2018年11月農林水産祭天皇杯を夫婦で受賞するという栄誉にあずかりました。

「福澤育林友の会」の皆さまからお祝いの言葉を頂戴いたしましてありがとうございました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

ご存知の通り林業は先祖代々から譲り受けた山林を守り、植林、育成、伐採、販売を生業としております。速水林業は父の代から自然と共生しながら先進的



天皇杯

技術を取り入れ、守りだけではなくチャレンジする林業を行っております。その努力が認められ1981年度には父 速水勉が天皇杯を頂きました。その精神を受け継ぎ、より良い森林を育てるため様々な努力や試みを行ってきました。中でも環境に配慮し、経済的にも成り立つ林業経営を証明する FSC 森林認証を日本で最初に取得し、FSC 認証制度の普及活動を行ったこと、又、新しい仕組みの苗木生産を行い苗木から丸太まで、販売も地域の森林組合や製材業者と連携したやり方を進めて、地域の木材を販売していることなどが評価されたようです。これらの努力は速水亨と速水林業従業員、そして関わる団体の人々の支えがあったのことで大変感謝し、私などが一緒に受賞するのはおこがましい気持ちですが、男女共同参画型社会推進の流れかと光栄に思っております。さて、その私はというと子育ても一段落して何か社会と関わりたい



初めての植え付け

と思うようになった頃「福澤育林友の会」設立に際してお手伝いをするという話が持ち上がりました。会員集めから始まり講演会の講師手配、旅行の相談など楽しく活動をさせていただいております。その後林業を学ぶため東京大学大学院農学部生命科学研究科に研究生として通い、少しだけですが知識や人脈を得て家業への関わりを持つようになりました。都会の人と田舎の人を結び付けたいという思いで FSC 認証啓蒙活動や林業経営者協会

婦人部としての活動をしてまいりました。一方地元では檜葉から蒸留生成をして檜オイルを作る作業も始め、森林組合と共に木工品開発などに携わり地域の活性化になればと思っております。

田舎には縁もゆかりもなかった文学部出身の私が林業の家に嫁いで42年、栄えある天皇賞を夫婦で頂戴し、支えて下さった皆様、林業に関わるきっかけを作って下さった「福澤育林友の会」に心より感謝いたしております。

## 循環型社会に向けた材木屋の取組み

長谷川 泰治  
(株式会社長谷川萬治商店 代表取締役副社長)

弊社は、創業者長谷川萬治により 1921 年に東京木場で創業いたしました。木材卸売問屋業として、国内外の針葉樹から広葉樹まで主に建築用材となる木材を幅広く取り扱い販売しています。また、木材事業を川下へと拡大し、木造軸組工法のプレカット加工、ツーバイフォー工法のパネル加工、そして長谷萬カスタムホームズというブランドで建設業を営んでいます。循環型社会の構築に向けた開発目標 SDGs が世界的に注目されている中で、循環型資源であり CO2 も固定化できる木材の利用拡大が強く求められています。木造ではなかった建物が木造になり、本物の木ではなかった建材が無垢の木材に切替わっていく社会に転換しつつあります。

SDGs の中で注目されている目標の 1 つに「海の豊かさを守る」があります。プラスチックゴミの海洋汚染が毎日のようにニュースで取り上げられていますが、この問題についても材木屋として取組んでいきたいと考えました。SDGs ハウスの設計に関わる SFC の小林博人先生と手を組み、江の島で「釘の無い海の家」の普及に取り組んでいます。江の島のゴミ拾いボランティア団体 NPO 法人海さくらと日本財団が進めるプロジェクトで今年 3 年目を迎えます。江の島海岸でゴミ拾いをすると砂に混じりたくさんの釘が落ちています。これは、海の家を解体した時に捨てられた釘が何年にもわたり放置されてきたものです。この問題を根本から解決するために釘を使わない海の家を普及させるという試みです。アーチ型の屋根の下に複数の小屋が設置され、夏の間はライフセーバーの詰所として使われています。

国産針葉樹合板を用い、接合部を工夫して全く釘を使わない構造物を実現しました。また、毎年、解体してまた組み立てるということを繰り返し、材料自体もゴミにならないような仕組みになっています。このような取組みに積極的に参加し次世代に良い形で海や山の環境を引き継いでいきたいと考えています。今後も木材業を通して循環型社会の構築に向けて様々な活動に挑戦してまいります。



木は軽いので子供たちと一緒に組立てます



野老朝雄氏デザインの天幕を参加者全員で取付けます



完成した釘の無い海の家



<「釘の無い海の家」 特設ページ>  
<http://www.kuginonai-uminoie.com/>

## 2019 年度「研修旅行」の案内

2019 年 9 月 14 日(土) ～ 15 日(日)

今年の研修旅行は、2019 年 9 月 8 日(土)～9 日(日)で「黒羽・友情資産 25 年の森」を訪ねる旅を企画しました。

1 日目は、各自昼食後「那須塩原駅」で集合、平成13年5月に植樹した「黒羽・友情資産25年の森」を視察します。その日は、友の会会員である猪股英毅氏が経営する「ホテル花月」で懇親会を開催します。

2 日目は、「陶芸メッセ・益子」で陶芸の造形美に触れ、昼食を済ませた後、宇都宮に近い大谷石の採掘跡を訪れ、資料館と地下大空間を見学しながら未知なる空間をご堪能いただきます。その後、宇都宮駅で解散となります。

天候や交通機関等の都合により、見学先等を変更する場合がありますので予めご了承下さい。詳細につきましては、別紙案内をご覧の上、奮ってご参加下さいますようお願い致します。

### 記

日 程： 2019 年 9 月 14 日(土) ～ 15 日(日) 1 泊 2 日

締 切： 2019 年 8 月 30 日(金) ※ 募集人数 40 名に達し次第、締切日前でも募集終了となります。

費 用： 会員 22,000 円  
非会員(一般) 24,000 円  
学生 15,000 円

<注意> 8 月 9 日(金)～8 月 16 日(金) は慶應義塾三田キャンパス夏季一斉休暇のため、この間のお問合せ等の対応はできません。

以上

## 2018 年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：164 名 (2019 年 4 月 1 日現在)

2018 年度	収 入	支 出	摘 要	
前年度繰越金	5,238,607			会費の口座振替について  2019 年度会費の口座振替予定日は 2019 年 9 月 24 日(火)を予定しています。
会費	1,300,000		2018 年度会費(152 名分)	
事業参加費	790,000		シンポジウム・研修旅行	
利息	48		普通預金利息	
寄附		1,000,000	慶應義塾へ寄附	
通信費		94,460	ニュース・案内等発送通信費	
事業経費		1,055,319	シンポジウム・研修旅行	
手数料		18,446	会費引落サービス手数料	
当年度収支	2,090,048	2,168,225		
次年度繰越金	5,160,430			

### 【慶應義塾への寄附】

本会会則の目的にある「慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。」こととして、年度末に残余金の一部を慶應義塾へ寄附しました。寄附から支出した事業・内容については、慶應義塾から連絡を受けて、後日ご報告予定です。